

## 海外安全対策情報（2018年7月～9月：ナミビア）

### 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当地はアフリカの中では比較的安全と言われているが、金品目的の軽犯罪は恒常的に発生しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によると、首都ウィントフックが位置するコマス州における犯罪発生件数はナミビア全体の約4割である。首都ウィントフックにおける犯罪は主に住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、車上強盗であり、犯行集団は首都ウィントフックの貧困層居住地域（カタトゥーラ地区）に存在する。犯行集団の多くは貧困層の素人集団であり、プロによる犯行は少ない。貧困層居住地域にはナミビア伝統料理を提供する観光客で賑わうマーケットが存在し、昨年、日中に邦人が路上強盗に遭う被害が発生している。

（2）当地の失業率は、2014年の28.1%から2016年は34%と近年増加傾向にあり、特に若い世代の失業率は2016年に37.8%と近隣国と比べて非常に高く、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物は容易に換金できる、カメラや携帯電話等の電子機器である。当地ナミビア安全保障省の犯罪統計の数値では、当国における携帯電話の盗難被害発生件数は、2014年の4,446件から2016年は6,075件と、過去2年間で27%の増加を示している（参考 近隣国失業率：南アフリカ26.7%、アンゴラ26%、モザンビーク24.37%、ボツワナ17.6%、ザンビア7.53%、ジンバブエ5.09%）。

（3）環境・観光省のデータによると、当地を訪れる外国人観光客数は年々増加傾向にあり、2015年の1,519,618人から2016年は1,574,148人と3.6%の増加を示している。それに伴い、観光客が多数訪れるスワコップムントとウォルビスベいを管轄するエロンゴ州の犯罪発生率は、2014年から2016年にかけて12%増となり、観光客が被害者となる犯罪は増加していると推測される。邦人観光客数も2015年の2,192人から2016年は3,957人と44%の増加が見られ、旅券盗難被害は2016年の6件から2017年の9件と33%の増加を示している。今年2018年は1月に1件、2月に1件、9月に1件、邦人旅行者に対する強盗被害が発生している。

（4）銃器に関連した刑事事件、警察庁発表の統計によると増加の傾向はないが、当地の治安当局は年々増加する銃器の増加、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に伴い、銃器関連の犯罪増加につき懸念している。近年、体感治安の悪化により国民が安全意識の向上に関心を示し、銃の免許取得者は年間6,000～7,000人のペースで増加している。銃器盗難件数は2016年に過去最高の250件を越えて

おり、当地の銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の14%となる。

なお、Small Arms Survey（※当館注：スイスジュネーブにある国際研究所）が6月に発表した調査結果によれば、ナミビアの銃器所持率はアフリカで二番目に高く、396,000台の個人使用目的の銃器があり、内195,990台が違法、200,010台が合法の銃器と推定されている。

## 2 外国人に対する犯罪の事例

（1）7月8日、深夜1時45分頃、当館から南西約7kmのエロス空港付近で、フランス人が友人と帰宅途中、パンガ（大型ナイフ）で武装した二人組に襲われ、財布と携帯電話を強奪された。

（2）7月10日、午後6時頃、当館から北へ約2km、ボウカーストリートで、タクシーに乗車していたフランス人が、タクシーの車内で強盗に襲われた。被害者はタクシーの車内で運転手と後部座席に乗車していた乗客を装った2名に金品を要求された。被害者は抵抗したが、旅券の入ったバッグのヒモを切断され、強奪され、車外へ放り出された。被害者によると、当地仏大使館付近、インデペンデンスアベニュー通りにあるガソリンスタンド付近でタクシーを拾い、人気のない場所で襲われたとのこと。

（3）7月23日、午前8時から午後8時30分の間、当館から西へ約3kmのインデペンデンスアベニュー通りで、イタリア人観光客に対する盗難事件が発生。犯行は2人組の男性で実行され、イタリア人観光客が信号待ちをしているところ、2人組の内1人がレンタカーを運転する観光客に話しかけて気をそらし、その隙に実行犯が左後部座席のドアを開放しバッグを持ち去った。被害はバッグ及びバッグの中に入っていたカメラ、現金、各種カード類。

（4）8月2日、午後8時頃、当館から北へ約2.5kmのレストラン（ルーフオブアフリカ）付近で、ドイツ人観光客に対する路上強盗事件が発生。被害者は食事を終え宿泊先へ徒歩で移動中、複数名の犯行集団にナイフで脅され、旅券等入ったバッグを強奪された。

（5）8月2日、午後11時頃、当館から西へ約2.5kmのバー（ウェアハウス・シアター）付近で、在留アメリカ人に対する路上強盗事件が発生。被害者は飲食後、車に戻ってきたところ、ストリートチルドレン含む犯行集団に刃物で脅され、金品

を強奪された。

(6) 8月12日, 午後5時頃, 当館から西へ約300kmのスワコップムントのロウデアリーストリートで, ドイツ人観光客に対する路上強盗被害が発生。被害者は頭をナイフで刺され, 病院へ搬送された。物品被害については確認できていない。

(7) 8月15日, 午後10時頃, 当館から西へ約300kmのスワコップムントのスワコップムントホテルの近くで50代のオーストリア観光客に対する路上強盗事件が発生。被害者は徒歩で移動中, グレーのポロを運転する複数名の犯行集団に襲われ, 所持していたカメラと現金を強奪された。被害者は体の一部をナイフで刺されたため, 数日間入院をした。

(8) 9月8日, 午後15時頃, 当館から西へ約3kmのアーニホテルの前に設置されている, FNB銀行の路上ATMで, オーストリア人観光客がATMカードを強奪された。被害者がATMで現金を引き出そうとしたところ, 見知らぬ男がATMの操作方法を教えると親切を装い近づき, カードがATMから出てきた瞬間, 取り上げ, 逃走した。

(9) 9月10日, 午前10時頃, 当館から北西へ約400kmのウイスとスピッツコッピ間のグラベルロード(未舗装の砂利道)で, ポーランド人女性観光客2名に対する路上強盗が発生。銀の車を運転していた3人組の犯行集団は, 被害者2名が運転, 乗車するレンタカーを追い越し, 道を塞ぎ, 逃げようとする被害者の車を追跡し, 強制的に停車させた。その後, 3人組は車から降り, 1人はパンガ(大型ナイフ)で被害者を脅し, 窓ガラスを破壊, 他2名がカメラ, 財布, リュックサック, 衣類, 7,000ナミビアドル(日本円にして約5,950円)等を車内から持ち去った。犯行集団は更に金品を要求したが, これ以上収穫が見込めないことがわかると北部ウサコス方面へ逃走した。

(10) 9月16日, 日中, マウントロッシング付近で, 銀色のカロラに乗った複数名の犯行集団が観光客(国籍未確認)の運転する車に接近, タイヤがパンクしていると注意を促し停車させた後, 脅し, 金品等を強奪した。

(11) 9月16日, 13時頃, ウォルビスベイとソーサスフレイ間の道路(C14)で, ドイツ人観光客2名に対する車上強盗未遂事件が発生。黒のセダンに乗った3人組の犯行集団が, 被害者の運転するレンタカーを追い越し, 道を塞ぎ停車させた後, 1人が燃料不足のため助けを求める素振りで見つかった。その後,

バットを持った2人が降車し、レンタカーのタイヤをパンクさせ、窓ガラスを割り、金品等の強奪を試みた。しかし、被害者がタイヤのパンクした車でその場から離れたため、犯行は未遂となった。

(12) 9月17日、13時頃、ウイスとセスフォンテイン間で、オーストリア人観光客2名に対する路上強盗事件が発生。複数名の犯行集団は、車で被害者が運転するレンタカーを追い越し、道を塞ぎ、停車させ、携帯電話、現金、ID、パスポート、カメラを強奪した。被害者のIDとパスポートは現場付近に捨てられていた。

(13) 9月22日、夜10時10分、ドクターケネスデービッドカウダストリートで、邦人旅行者2名に対する路上強盗事件が発生。ウィントフック市内のレストラン（ルーフオブアフリカ）から1.2km離れた宿泊先（ホテル・ペンション・ユーランド）へ戻るため徒歩で移動中、5人組の犯行集団（内1名は果物ナイフのような物を所持）に襲われ、押し倒され、羽交い締めされ、所持していた携帯電話（2台）と携帯電話ケースに入れていたクレジットカード（2枚）を強奪された（被害者の内1名は羽交い締めにされた際、額にかすり傷を負った。）。被害者は宿泊先に到着次第、警察へ連絡し、その後被害届を提出した。

### 3 薬物・危険ドラッグについて

(1) 薬物や危険ドラッグ等の密輸に際してブラジルから南アフリカ、南アフリカからアンゴラの経由地として当国が利用されている。観光地や首都ウィントフックの一部バーではマリファナやコカインが使用されている。事件に巻き込まれない様、バーやクラブには近寄らないことが肝要である。

(2) 今年6月15日の午後12時頃、当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで、ブラジル、南アフリカを経由してきた412kgのコカイン（市場価格206,000,000ナミビアドル、日本円で約20億円）が押収された。当地国境付近では、2017年1月から現在まで、ナミビア国籍、南ア国籍、アンゴラ国籍、マラウィ国籍、ザンビア国籍を含む少なくとも35名が薬物密輸により逮捕されている。

### 4 交通事故

交通事故による死者数は年々増加の傾向にあり、2011年の492件から2016年731件と5年間で33%増加している。2016年のデータによれば、横転事故が全体の交通事故の29%を占め、次いで追突事故が27%、歩行者との接触が23%となり、交通事故発生 の主な原因は、スピード超過、不注意、無謀運転等である。直線で片側一車線という道路も大きな要因のひとつであり、大型幹線道路で高齢者や初

心者, または大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因のひとつと考えられる。今年に入ってから、観光客が移動中、飲酒運転による無謀運転の事故に巻き込まれ死亡したケースも発生しており、飲酒運転手による事故に巻き込まれないよう、信号が青でも、交差点に進入する際は左右の確認をする等、注意が必要である。なお、最新の情報によれば、2018年の1月から9月までの交通事故報告件数は2543件、死者373人となる。

#### 5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

#### 6 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人が被害者となる、身代金目的の誘拐事件は認知していない。

#### 7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

#### 8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○7月 2日付, 陸橋からの投石による車輛強盗事件の発生

○7月 3日付, インフルエンザの予防法について

○7月20日付, 現金引き出し後の追跡による犯罪の発生

○8月10日付, 外国人・観光客を狙った犯罪被害の発生

○8月23日付, 外国人・観光客に対する犯罪被害に関する警察情報

○9月 5日付, ナミビアにおけるE型肝炎の拡大

○9月19日付, 外国人観光客に対する車上強盗事件の増加

○9月23日付, 邦人旅行者に対する路上強盗事件の発生

○9月 27日付, 一部訂正・邦人旅行者に対する路上強盗事件の発生 (了)